

## エクステンジプログラム報告書

1. 被招へい者（被派遣者）全員の氏名・所属・身分とそれぞれの滞在期間・滞在先  
佐藤修二 名古屋大学大学院理学研究科 教授  
6月7日（月）～12日（土）5泊6日 大学宿舎（5泊）
2. 受け入れ担当者の氏名・所属・身分  
木下大輔 国立中央大学 准教授
3. 招へい（派遣）の目的（200字程度）  
日本側の目的は、観測装置の提案および天文台視察（1、4）、NCU側の目的は開発状況の紹介（2、3）である。 ※カッコ内の番号は 4. 成果報告 の番号に対応。  
(1) 8日（火）10:30～11:30 実験開発室（10階）の視察、  
(2) 14:00～15:00 装置開発セミナー 質疑応答  
(3) 9日（水）15:00～16:30 装置開発メンバーの現況報告  
(4) 10～11日（木金） 鹿林天文台見学予定
4. 成果報告（用紙が不足の場合は足してください）
  - 1) よく整備された実験室で、我が国天文系でも見ないレベルである。まだ実際には行われていない。来月から4色（rizy）カメラ部品が続々と納入される予定とのこと。
  - 2) はじめの45分間で私が設計製作中のTRIPOL(Triple Range Imager and POLarimeter)の紹介、引き続いて45分間、それに関して質疑応答を行った。  
出席者 約15名（教育系スタッフ、技術系スタッフ、大学院生）  
※ 発表後に、チェン教授からTRIPOLの共同開発の申し込みおよび招聘を受けた。  
基本的に開発を支援することに承諾したが、招聘については辞退。
  - 3) 木下大輔グループの技術系メンバー3名（呉＝ウー技術スタッフ40才前後、陳＝ダンカン25才前後、沈＝シェン35才前後）が発表。  
それぞれの経歴と特徴をよく生かした役割分担（呉＝アナログ、デューワー／陳＝フォトニクス、フィルター。積分球／沈＝コンピュータ、CCDカメラ制御）で、着実な姿勢に感銘を覚えた。発表内容は私にとってもよい勉強になった。  
他に二人（黄、饒？）居て全部で5名、二人は都合で参加できなかったとのこと。  
実験環境、人材の両面でよい布陣になっている。大いに発展が期待できると確信した。
  - 4) 鹿林天文台の視察（10～11日）は、佐藤が風邪を引いたため中止した。